



岩江中だより

第 15 号

発行日：平成 27 年 7 月 8 日

発行：三春町立岩江中学校

電話：0247-62-8290

FAX：0247-62-8380

E-mail: school@iwae-jfks.ed.jp

学校経営基本方針『こころ豊かに』～「共に」語り合い、分かち合い、成長する学校～

【岩江小・中学校生徒指導支援連携協議会開催！

～「共に」語り合い、分かち合い、成長する学校づくりのために～

6月22日(月)は、岩江小学校と中学校が連携し、子どもたちのよりよい学びの環境づくりをしようという大切な機会である「岩江小・中学校生徒指導支援連携協議会」という長い名前の協議会が開催されました。岩江中学校でいうところの第1学期に、岩江中学校で行う小・中連携の会議、第2学期には今度は岩江小学校において、小・中連携の成果と課題の確認の場としての小・中連携会議が計画されています。

第1回は、まず岩江小学校の先生方に中学校に来ていただき、授業参観、全体会、各分科会という順序で進められました。以下には小学校の先生方が中学校を訪れて感じた感想や意見等を掲載いたします。今回の協議をうけ、各校で小・中のつながりを意識した授業・指導が展開され、11月の岩江小学校での協議会ではその成果が遺憾なく発揮されますよう切に願います。

〔岩江小・中学校生徒指導支援連携協議会記録〕

1 公開授業の感想等

- 小学校の基礎・基本の定着が大切だ。
- 意欲が感じられたが自力解決の難しい生徒もいた。
- 前までの学習内容の振り返りがあって助かった子もいる。
- できない子がずっと動けないので机間指導をしていきたい。
- T・Tを生かし個別指導を行うとよい。下位の生徒を伸ばすT・Tの工夫があるとよい。
- 視覚化がわかりやすかった。T2の存在が大きい。
- 授業に真剣に取り組み大人数でも集中してやっていた。
- 上位を伸ばす手立ての工夫はすばらしい。
- 合唱のハーモニーがきれいだった。
- 毎時間の学習の記録がしっかりと蓄積されている。
- 美しい発声を心がける授業の進め方がすばらしい。
- 男子の私語が気になりました。
- 自主的にパート練習に取り組めるところがさすが中学生だ。
- 語彙力や表現力が個人差がかなりある。
- ペアで発表させる方法がよい。
- 言葉に着目し、共通点と相違点を考えさせておもしろい内容だ。
- 抽象的な言語概念、言語感覚が求められる。コミュニケーション指導に参考となった。
- 和やかな雰囲気の中で授業が行われていて楽しそうでした。意欲が感じられた。
- 掲示物に対する生徒のコメントが当を得ているものが多く感心した。
- 子どもたちから答えを引き出そうとしている。
- 子どもの実態に即した指導をしている。
- 話し合いがうまく成立していない感じがする。
- バレーボールがとても上手になってい。チームごとのまとまりに成長が見られました。
- 男女一緒に活動でも励ましの言葉を掛け合いながら活動できていた。
- 運動量も十分でした。

2 分科会

(1) 学習習慣分科会

① 協議内容について

家庭学習時間の話題から始まった。小学生は60～70分くらいの家庭学習時間であり、中学生は1年生で90分と示してあるが実態は生活記録の自己申告で見ると見えない。中学3年生は受験用教材＋自主勉強＋各教科の宿題に取り組んでいる。3年生は中体連が終了し、4時半には帰宅し、1・2年生は放課後の活動後6時半に下校するので、家庭での生活が鍵になってくる。授業の工夫・充実が最優先事項であることに変わりはない。

実態を把握し、実態に応じた指導を、小・中が同方向性をもって、校種に応じた指導を展開していくことの大切さを確認した。

② 各学年の実態について

- ・小1 生活のきまりを覚えるのに家庭との連携が大切となってくる。学習習慣を身につけさせるため7月から自主勉をスタートさせる。
- ・小2 自分の席で話を聞くことができるようになってきた。メモをさせ忘れ物の対応をしている。家庭との連携が重要である。読む力をつけさせたい。
- ・小3 自主勉は両極端である。時計を見て行動できるよう教師の関わりと指導が必要である。
- ・小4 忘れ物がないよう家庭も協力してくれる。時間を使う指導に取り組んでいきたい。学習のメニュー表を児童に渡し、勉強内容を指導することもある。振り返らせる指導も大切である。

- ・小5 時間を守り、真剣に話を聞き答える指導をしている。忘れ物や自主学習など自分のために取り組もうとする気持ちを指導している。
- ・小6 意識が高くなってきた児童が多い。パワーもある。勉強面で成長してきている。自主勉もできている。“自分で考えてやれる児童”をめざす。読書の楽しさ、必要感を味わわせる指導をしていく。
- ・中学校 朝の読書をしている。全校で集中して取り組んでいる。ゲームはやはり問題とを感じる。オンラインで知らない人とつながっている生徒もいる。土日で部活があると月曜日はぐったりの状況もある。中学校は多くの先生から指導される。組織として同じ指導を繰り返し行うことは大切である。

(2) 生徒指導分科会

① 各学校の実態について

ア 中学校

- ・ 「考える指導」に力を入れている。
- ・ 子どもを地域と共に育てることを考えた場合、小さい頃からの生活経験や学習習慣づくりが求められる。小学校・PTA・地域との連携が重要である。
- ・ 幼さが気になる。内面的な指導も行う必要がある。
- ・ 実態を捉え、個に応じ、段階をふんだ指導を展開していく必要がある。
- ・ 中学校では不登校傾向が改善した生徒がいる。
- ・ 道路で携帯を使用している生徒がいる。
- ・ 幼い、他人のことを考えられない、忘れ物が多い、話をきちんと聞けないなど、中学校の課題は小学校での課題と同様である。

イ 小学校

- ・ 自己肯定感が低いため、褒め言葉のシャワーで自信をつけさせようとしている。
- ・ 話が聞けないため特別の配慮をしたり話の聴き方等の約束事を決めたりして取り組んでいる。
- ・ 学年×10+20分の家庭学習時間の提示や「ノートタワー」(学習の視覚化・他へのお手本)を指導し、学習習慣の確立に努めている。
- ・ 問題傾向等に全職員で対応している。
- ・ 携帯・スマホ・ゲームのけじめのなさが心配である。学校と家庭の役割分担を明確にして取り組んでいく。
- ・ 縦割り班として、通学班、清掃班、運動会班がある。ボランティア活動もある。

ウ 養護教諭から

- ・ 自分の体の状況をうまく言えない生徒もいる。小学校は肥満が気になる。中学校に入ってやせた子もいる。
- ・ 提出物をあまり出さない。手のかけ処と考える。
- ・ 好き嫌いに小学校では悩んでいる。
- ・ 実態を捉えそれに対応するには低学年からの指導が必要だ。
- ・ 代表委員会が学級の意見を吸い上げて学校全体の場へもってくる。リーダー育成等にもよいのではないか。
- ・ 中学校生活への適応力とは、基本的な生活習慣、提出物を出す、話を聞く、忘れ物をしない、黒板を写せる、指示を聞いて行動する、準備や片づけに時間をかけない力などである。
- ・ 幼稚園から入り小学校の生活時間に対応できない子もいる。幼稚園の普段の生活を見にいけるようにできるとよい。
- ・ 小学6年生の2・3月に中学校の先生からどういう力を身につければいいのか説明するのはではなく、6・7月頃に来てもらえれば小学校で指導できる。
- ・ 本人の自立を促したい。

(3) 特別支援教育分科会

① 実態について

- ・ みんなと同じ学習をしてほしいという要望が強い。人と比べずに子どもの現状に応じた対応を図っていききたい。
- ・ 自己理解と自己支援力を身につけさせたい。
- ・ さまざまな支援というものについて理解・検討していききたい。
- ・ ソーシャルスキルトレーニング(SST)に取り組んでいる。
- ・ 通常学級で埋もれかねない子どもに注意し教育相談体制をとっている。
- ・ 「特別支援教育だより」を発行している。
- ・ 困り感をもっている子どもに個に応じた適切な指導を展開する。その子にとってよりよい教育環境を準備してあげたい。

以上が岩江小・中学校の連携会議で話し合われた内容です。各校の先生方がそれぞれの学校の取り組みについて率直に話し合い、よりよい教育を推進するため連携・実践を図っていきます。その内容を保護者や地域の方々にもお知らせし、岩江小・中学校は保護者・地域のみならずとも連携を密にし、「共に」子どもたちによりよい学習環境を提供していきたいと考えています。